

ポストポリオ症候群

ポリオ経験者の二次障害PPS

「頑張りすぎ」は逆効果

一九五〇～六〇年代に大流行したポリオ(小児まひ)に幼いころ感染した人が、四十～五十年たって、手足の新たな筋力の低下や痛みに襲われる「ポストポリオ症候群(PPS)」。「頑張りすぎ」を避けることが、症状の改善や進行を遅らせるのに有効とされる。

(佐橋大)

藤田保健衛生大(愛知県豊明市)のリハビリ部門とポリオ友の会東海は、七年前から三回、会所属のポリオ経験者を対象に検診を実施している。大病院での二月の検診には、約三十人が参加。脚の筋力を測定したり、脚の負担を抑える補装具の具合を調べたり。神経や筋肉の負担程度を知る手掛かりとなる血清CK値を測定するなどした。結

ポリオ経験者の脚の状態を調べる医療スタッフ=愛知県豊明市の藤田保健衛生大病院で



果は後日、本人に通知され、受診のきっかけや日常生活の参考にしよう。PPSはポリオ感染による二次障害。ポリオは乳幼児に流行した病気で、一九六一年まで毎年数千人の患者が報告されていた。ウイルスで運動神経が侵され、手足にさまざまな程度のまひが残ることもあった。ワクチン導入などで激減し、八〇年を最後に自然感染の報告はない。

感染後、ウイルスで死滅した運動神経細胞に代わり、筋肉を動かすために別の神経組織が発達する。だが、その神経組織には常に過度な負担がかかる。PPS発症の仕組みは完全には分かっていないが、過度な負担で神経細胞の老化が早まり、それに伴って手足の筋肉が萎縮、筋力低下や痛みが生じると考えられる。同病院リハビリ科は、検診を経て外来受診した人に、筋電図などの精密検査をする。神経の残り具合を調べ、患者に合った運動の負荷を突き止める。沢田

「年のせい」勘違いも

光思郎医師は「人は運動が少なすぎると『廃用』といわれて体が衰える。PPSの人は運動が多すぎても『過用』で筋肉が減る。『廃用』と『過用』の間、ちょうどいい生活習慣になるよう助言する」と話す。体の部分によって神経の損傷状態は違う。状態の悪い部分を動かさすぎないよう、早めに補装具をつけたり、つえやエレベーターを使ったりするのも対処法の一つ。状態を確認し、軽い運動やストレッチを勧めることもある。

ポリオ経験者の団体でつくる全国ポリオ会連絡会(神戸市)運営委員長の柴田多恵さん(五)によると、活動の結果、都市部の大規模病院のリハビリ科、神経内科などでは適切な診療を受けられるようになったが、情報格差も依然あり、「加齢のせい」と、逆効果となる過剰な筋力トレーニングを勧められる人もいる。ポリオ経験者は障害への差別的強い時代を生き、体にハンディを負いながら頑張ってきた人が多い。リハビリも「頑張りすぎ」になりがち。ポリオの経験も周囲に言いたがらない傾向があり、医師らがPPSを見

補装具活用を

検診を受ける人の状態はさまざま。愛知県豊明市の男性(七)は三歳で感染、十代から右脚に補装具をつけている。八年前に妻が入院し、毎日看病に通った疲れからか、急に左膝に力が入らなくなり、よく転ぶようになった。妻の入院先の医師が偶然PPSに詳しく、診断された。脚の負担軽減のため、左脚にも補装具をつけ、長い距離の移動は車いすを使う。「普段から無理生きている」「写真」を作成しすぎないように心掛けてた。日常生活に関する助

言、補装具選びのこつや、経験者の体験談を紹介。二百四十四名。送料込み千二百円。郵便振替口座0272016195146、加入者名は「全国ポリオ会連絡会」で、依頼人の住所、氏名を記入して送金すると郵送される(振込手数料は購入者負担)。問い合わせは柴田さん(電078(792)7471)へ。



「の」と話す。

取 前 線

患者診ずに画面見る

「ホンネ外来」は患者や家族、医療関係者が医療現場での体験や感じたことを、それぞれの立場から語り合い、相互理解を深める欄です。〒460-8511(住所不要)中日新聞医療取材班。ファクス052522225284、下記の電子メールで。紙面では匿名ですが、干住所、年齢、職業、連絡先を必ず記入してください。中日新聞医療サイトでも掲載します。

親身な説明うれしい

左手の甲を骨折し、入れていた補強金具を抜く手術をすることになりました。義母の体調が優れず、子どもを長時間預けられない旨を病院に伝えると、主治医の先生は、軽い麻酔で短時間で済ませる処置があること、麻酔が切れて痛みが出るおそれがあることを説明し、私は処置を選択。処置中、先生は「麻酔は切れていませんか」「あと二本です」と声をかけてくれ、安心して処置を受けられました。氣遣いに感謝しています。(愛知県女性41歳)

ホンネ 外来

医療取材班 ▶ iryouhan@chunichi.co.jp

医療に関する過去の記事は「中日メディカルサイト」で閲覧できます